

ネイチャー甲子園について

日本列島は、各地域において多様な自然を有し、人々がその中で自然と調和しながら生きてきました。

今日、地球温暖化による異常気象や生物多様性の減少などが課題となり、私たち人間と自然との共生関係の在り方が問われています。

本事業は、全国の高校生たちが、身近にある自然や生業等をテーマとした動画制作や生きものの調査を行うことで、地域の活性化や環境保全、郷土愛の育みへのきっかけとなり、自然と人間との共生社会に向けた諸課題に対応する力を育成することを目的としています。

ネイチャー甲子園HP

<https://www.expo-cosmos.or.jp/naturekoshien/>



主催 公益財団法人国際花と緑の博覧会記念協会 株式会社地域環境計画

協賛 **Canon**

協力 株式会社バイオーム

後援 文部科学省



令和6年2月11日(日・祝)
午後2時～4時

花博記念ホール
(大阪市鶴見区緑地公園)

午後2時

開会

動画クリエイト部門入賞グループ入場・自己紹介
開会あいさつ 片山博昭（国際花と緑の博覧会記念協会 専務理事）
審査員紹介

動画クリエイト部門プレゼンテーション

作品コンセプト説明等
動画作品放映
審査員コメント

生きもの調査部門上位入賞者インタビュー

贈呈
講評 高塚敏（地域環境計画 代表取締役）

動画クリエイト部門結果発表

インタビュー
贈呈
講評 審査員長 林理恵（NHK専務理事・大阪放送局長）
最優秀動画作品 再上映

午後4時

閉会

各部門概要

動画クリエイト部門

テーマ：自然と人間との共生

地域の自然とそこに生きる多様な生きもの、地域の文化や自然と関わる人々の生業など、身近な「自然と人」の姿をストーリー性のある2分～5分の動画で表現するものです。審査により選ばれた上位のグループには以下の賞を贈呈します。

最優秀賞（1点）

賞金 **5万円**
副賞：キヤノンEOS R50

優秀賞（2点）

賞金 **3万円**
副賞：キヤノン PowerShot ZOOM

生きもの調査部門

テーマ：身近な自然の多様性

学校所在地のある都道府県内で、身近な自然に生育・生息する「生きもの」を、フリーアプリ「Biome（バイオーム）」を活用し、投稿するものです。動物の部、植物の部として、種類数で上位のグループには、以下の賞を贈呈します。

動物の部（1位～3位）

賞品：自然観察アイテム各種

植物の部（1位～3位）

賞品：自然観察アイテム各種

動画クリエイト部門入賞グループ一覧

- 帝京大学可児高等学校（サイエンス部）
大森奥山湿地群の生き物たち
- 東京都立八王子東高等学校（八王子のジュピター）
【高尾山】紡ぎ 繋ぎ 継いでゆく ひとときを
- 大阪府立港南造形高等学校（動物研究同好会）
アカハネオンブバッタLovers
- 京都文教高等学校（チーム男子）
京都・叡山電鉄 もみじのトンネル～250m,200本の奇跡 紅葉と鉄道が創り出す思い出～
- 京都文教高等学校（スプリント）
キクタニギクと人との関わり方～失われたあたりまえを取り戻す～
- 群馬県立藤岡北高等学校（ガーデニング部）
桜山公園～自然とともに人々の笑顔を守り繋いでいく～

生きもの調査部門入賞グループ一覧

動物の部

- 1位：近畿大学附属高等学校（近高生物班）
- 2位：近畿大学附属豊岡高等学校（コウノトリ）
- 3位：愛媛県立三崎高等学校（みさこう）

植物の部

- 1位：大阪府立枚方高等学校（生物飼育部）
- 2位：岡山県立倉敷古城池高等学校（古城池の子）
- 3位：広島工業大学高等学校（hkdkSA）

動画クリエイト部門審査員



審査員長：林 理恵
NHK専務理事・大阪放送局長
東京都出身。1986年国際基督教大学教養学部卒業後、1986年NHK入局。仙台放送局や報道局政治部などで記者として従事した後、国際協力の仕事を担う。神戸放送局長や国際放送局長などを歴任後、2020年に理事就任。2022年には専務理事 メディア総局長としてNHKの報道、番組制作、デジタル発信、イベント等メディア全般を統括した。2023年専務理事・大阪放送局長に就任。NHKの西日本BCP強化も担当している。



審査員：井田 徹治
共同通信社編集委員・論説委員
東京大学文学部卒。本社科学部記者、ワシントン支局特派員などを経て、2006年から現職。気候変動に関する政府間パネル総会、気候変動枠組み条約締約国会議、ワシントン条約締約国会議、環境・開発サミット（ヨハネスブルグ）、国際捕鯨委員会総会など多くの国際会議、環境と開発、エネルギーなどの問題を長く取材。著書「サバがトロより高くなる日、危機に立つ世界の漁業資源」、「生物多様性とは何か」など。



審査員：前迫 ゆり
奈良佐保短期大学副学長（教授）
学生時代に八甲田山に登り、針葉樹の風衝樹形や雪の重みで桿がまがっているササの姿に、植物と環境の関係はおもしろい!と感じた。以来、生態学の研究を続けている。奈良女子大学で学位取得。奈良女子大学、大阪産業大学を経て、2023年4月より現職。著書「愛しの生態系-研究者とまもる陸の豊かさ」、「シカの脅威と森の未来」、「世界遺産春日山原始林」、「カワウが森を変える」など。



審査員：中条 太一
ネイチャービデオグラファー
1984年生まれ、幼い頃から自然の中で遊ぶのが好きで、釣りやアウトドアスポーツに親しむ10代を過ごす。20代はアウトドア業界で働き、スイスでビデオカメラマンとして働き、映像のスキルを学ぶ。30歳の時にアウトドア撮影に特化したカメラマンとして独立、以降全国350箇所以上の風景動画を撮影するネイチャービデオグラファーとして活動中。